



上_太宰治の「パンドラの匣」について話す富永さん(右)。小説の原作となった日記があることや、登場人物が実在したことなどを話した 下_レッドカーペットを歩いた内子こども狂言クラブの子どもたち

好きな街で、好きな映画を—— 10市町を舞台に初めての国際映画祭

「第1回愛媛国際映画祭」(愛媛国際映画実行委員会主催)が1月17日～2月2日の間、愛媛県内10市町を会場に行われました。

内子町では1月18・19の両日、内子座で「ソローキンの見た桜」など6作品を上映。18日には内子町出身の映画監督・富永昌敬さんの舞台あいさつがありました。富永さんは自身の「パンドラの匣」が上映された後、花道から登場。作品の魅力や原作となった太宰治の小説の面白さなどを語りました。会場からの質問に対しては、時代設定に合うバスを探すことに苦労したことや、看護婦長役を女優ではなく作家の川上未映子さんにこだわったことなどを話し、映画製作の裏側をのぞかせました。

19日にはオープニングイベントが松山市で行われ、「内子こども狂言記」に出演した子どもたちがレッドカーペットを歩きました。県立美術館などで上映された同作品は、狂言に向き合う子どもたちを追ったドキュメンタリー。保護者の一人は「舞台裏のリアルな感じが伝わって面白かった。たくさんの人に見てほしい」と笑顔で話しました。



みんなで相談しながら投句する句を選ぶ

新春の喜びひとときわ初句会 恒例の「内子町新春俳句大会」

「第43回内子町新春俳句大会」(内子町文化協会主催、山田清昭会長)が1月19日、共生館で開かれました。158句から最高賞の内子町長賞に選ばれたのは、矢野秀子さん=内子17=の「谷川の水くぐらせて鉾始」でした。矢野さんは「俳句友達に鉾を作る人がいたり、近所の農家の姿を見たりしていたので、いい句を思いついた。受賞はうれしい。俳句を続ける励みになる」と喜びました。

みんなの笑顔がはじける雪滑り ソルファ・オダでスキー・スノーボード実習

ソルファ・オダスキーゲレンデで1月21日、小田高校の「スキー・スノーボード実習」が行われました。幼稚園児や小学生の体験授業などもあり、たくさんの子どもたちが初滑りを楽しみました。地元講師に教わりながらスノーボードやスキーに挑戦した高校生は「暖冬で心配していたけれど、白いゲレンデを見て感動した。久しぶりの雪を思いっきり楽しめた」と声を弾ませました。



笑顔いっぱい的高校生「やっぱり冬のゲレンデは最高」

粋なイベント「いかざき冬花火」 聖なる夜空に咲かす大輪の華

「いかざき冬花火」(五十崎商工連盟主催)は12月24日、豊秋河原で開かれ、約700発の花火が打ち上げられました。理事の河畠登紀さんは「台風で中止になった『いかざき夏まつり花火大会』の代わり。59回の歴史で初めてのことであったので、時期がずれても無事に花火が上がってよかった」とほっとした表情。会場には多くの人々が集まり、夜空のイルミネーションを楽しんでいました。



寒さを感じながら一味違う花火を楽しんだ

新年の夜明けをみんなで楽しむ 新春恒例の「初日を愛でる会」

「初日を愛でる会」(立石自治会・愛隣会共催)が元日の朝、立石地区尾首で行われました。あいにくの雲で初日を拝むことはできませんでしたが、獅子舞や甘酒で新しい年の始まりをみんなで祝いました。水岡芳廣自治会長は「残念だったけれど、穏やかな朝だった。今年も平穏で幸せな1年であってほしい。元気で活気のある地域になるよう頑張りたい」と抱負を語りました。



獅子舞で邪気払い「いい年になりますように」

店では買えない七草探しの思い出 大人と子どもが交流「ふれあい七草」

春の七草を探す「ふれあい七草」(内子自治センター他主催)が1月7日、内子児童館などで行われました。世代間の交流や食文化の継承が目的で、今年は約40人が参加。沖田の田んぼで七草を探した後、温かい七草がゆをみんなで食べました。児童館の佐野かおり館長は「なんでも簡単に買えてしまう時代だからこそ、残したいつながりと文化」と話しました。



大人も童心に返って七草探し

町内各地に伝わる「どんど焼き」 お餅を食べて無病息災・五穀豊穡

新年の恒例行事「どんど焼き」が内子町内の各地域で行われ、1年の無病息災を祈りました。

大瀬地区のどんど焼きは1月11日、大瀬三島神社で開かれました。愛護班活動の一つにもなっており、たくさんの親子連れが参加。神岡道明宮司がどんど焼きの由来や意味、伝統行事の大切さを子どもたちに伝えた後、みんなで餅を火であぶり、ぜんざいにして食べていました。



長い竹の先に餅を挟んで焼く子どもたち